

広報させば 情報カレンダー 05. 6月



日	月	火	水	木	金	土
毎月第1水曜 毎月第2金曜	中小企業金融公庫出張相談 (13~15時、佐世保商工会議所) 発明相談(10時~15時30分、 市役所商工労働課)	1 「人権擁護委員 の日」特設相談 所の開設 中小企業金融公 庫出張相談	2	3	4 動物舎探検隊 (18日も)	
5 デンタルフェス ティバル カブトムシの飼 い方教室	6	7 早岐茶市・梅市 ~9日	8	9	10 発明相談	11 1100回記念おは なし会 市中学校体育大 会~13日
12 松の手入れ講習 会	13 銃砲刀剣類登録 審査会	14	15 市立総合病院の 健康教室	16	17 市中学校体育大 会・水泳競技	18
19 は虫類学習会、 観葉植物の育て 方講習会、父の 日サンセットク ルーズ	20	21 国民健康保険・ 夜間相談(23日 も) 出前保育み んなよっといでー (22日も)	22	23 市立図書館の特 別整理休館~30 日	24 女性の悩み相談 所の開設	25
26 総合グラウンド プールをオープン 国民健康保険・ 日曜相談	27	28	29	30		
5月28日~9月4日 西海のガラバゴス・男女群島の魚たち展 (西海パールシーセンター)			7月上旬の主な行事予定 7/3 市少年の主張大会 7/6 出前保育みんなよっといでー 7/9 白浜海水浴場をオープン 7/10 交通バリアフリー教室inさせば			
6月23日~30日 市立図書館の特別整理休館(市立図書館、早岐・相浦・世知原地区公民館図書室)						

テレホンガイド

救急・火災

医療機関案内 ☎23-8199
火災情報 ☎0180-999-999

エイズ相談・性感染症相談

専用相談電話 ☎0120-104-783
Eメールアドレス shc783@city.sasebo.lg.jp

教育相談

青少年教育センター ☎22-0077
(毎月第3日曜の13時~16時は、休日教育相談を受け付けています)

女性相談

スピカ ☎24-6180
(水曜と祝日を除く毎日、9時~16時)

6月の健康テレホン

県保険医協会 ☎23-4300
3分間のテープで、祝日は前日の内容が流れます。

月 梅雨時の健康管理 **火** 大動脈瘤とい
われたら **水** 子どもの救急シリーズ 後
遺症を残しやすいけいれん **木** 網膜剥離
金 統合失調症と自助努力 **土、日** 男性
の更年期障害

お詫びと訂正 5月号の人のうごきで、世帯数が「97,222世帯」とあったのは「97,220世帯」の誤りでした。広報係からお詫びして訂正します。

人のうごき (5月1日現在)

総人口 248,847人 (+1,565)
男 117,167人 (+1,069)
女 131,680人 (+496)
世帯数 98,731世帯 (+1,511)

4月中のうごき

転入 2,816 **転出** 1,209
出生 154 **死亡** 196

見て、聞く させば 市政だより

テレビ 毎週土曜日放送(約5分間)

NBC(9時25分) NIB(11時25分)
NCC(11時40分) KTN(17時25分)

ラジオ

NBC 毎週日曜日 9時10分
FM長崎 毎週火曜日 9時05分

長崎新聞 毎月第2、4水曜日広告欄



こんにちは市長です。

中期対策・下の原ダムの再開発

平成6年の大渇水は、佐世保市民にとってまさに悪夢の出来事でした。あれから既に11年が経過しましたが、いまだにその記憶が生々しくよみがえってきます。

あの悲惨な苦しみを再び市民にもたらしてはならないと決意して、私は直ちに短期の対策を実行に移しました。南部と北部の水を融通し合う施設をはじめ、三つの短期対策はそれから3年後に完成し、幸いにも、その後今日に至るまで断水の憂き目をみることなく過ごすことができました。

しかし、本市は、これでもまだ安心という状態にはないのです。短期対策と並行し、長期対策の石木ダム完成までのつなぎとして、中期対策の下の原ダム再開発に取り掛かり、4月20日の定礎式で、本格的な工事が開始されました。ダムの壁面をかさ上げし、現貯水量131万トンさらに86万トン増加する工事です。平成18年度末に完成の予定で、これで早岐を中心とする南部水系は、多少余裕ができます。もちろん、このような大掛かりな工事は、地主の方々や地元の皆さんの協力なしには不可能でした。これら関係者の皆さんに心から感謝申し上げます。

佐世保市長 光武 顕

歴史散歩

れきしさんぽ
479

あぜつ 観音堂の位牌 (針尾西町)

江戸時代、平戸藩浦役所が置かれていた鯛ノ浦の入江奥の高台に、畦津観音堂が立っています。本尊は観音さまではなく、胎蔵界大日如来で、真言宗のお堂だったことがうかがえます。本尊仏のそばに白木の簡素な位牌が置かれ、「沙門禅隆禅士、別 曰永尾宗寿」と書かれ、明治12(1879)年寂とあります。

位牌の裏には、「この僧は四国予州御崎郡伝生寺の弟子で、嘉永年間(1848~53年)から修学のため各国を訪ね、当国に来て畦津観音堂に20余年住んでいた。そこで当山に依頼があった」とのいわれが書いてあります。しかし、左側が少し欠けてなくなっており、地元の寺である「当山」の名、埋葬などの経緯が分かりません。観音堂から200メートルほど上



をうかがわせています。浦上家は藩役人の一人だったのでしょ。

(筒井隆義)



の墓地には、石の地藏尊を乗せた禅隆法士墓があり、地元の人からも慕われていたらしい人柄がしのばれます。四国予州は今の愛媛県で、御崎郡は佐田岬です。また、当国の呼び方は、それぞれの藩を指します。ともあれ、禅隆禅士は、おそらく修行の志を立てて各地の寺を巡り、天領長崎と平戸を結ぶ主要航

路の針尾瀬戸の船泊りにある観音堂で晩年を送ったのでしょ。

畦津には浦上姓の家が6戸あり、観音堂に奉納されている安政2(1855)年の石灯籠にも浦上林雪、数之の名があります。また、堂の併設された庵寺の所在を示す庵主の名と明和4(1767)年の記録

があるなど、この地が仏教の拠点だったこと